

# THE PROFESSIONALS

ザ・シンフォニーホールを支える匠たち



ザ・シンフォニーホール  
ステージマネージャー  
坂本 充勇

出演者が気持ちよく演奏できるように、  
コンサート進行のすべてを監督。

——ステージマネージャーってどんな仕事？

楽団にもステージマネージャーが所属し、楽器や椅子を配置したり演奏会のスムーズな進行に務めます。それをサポートし、出演者が気持ちよく演奏できる雰囲気や環境をつくり、安全に進行させるのが私たちホールに所属するステージマネージャーの仕事。照明や音響の担当者とも信頼関係を築き、舞台上のすべての責任を担います。

——ザ・シンフォニーホールで働くことを決めた理由は？  
また、やりがいを感じるのとはどんな時？

その当時、斬新であった「良い音楽」が残り、「フラシック」と呼ばれます。このホールで提供するの、そんな「良い音楽」。この素晴らしいホールを若い世代に受け継ぐために、ホールで従事する人を育て、若い演奏家にも育ってほしいと考えました。



ホールで働く中でやりがいを感じる瞬間は、何と言っても、お客さまの拍手です。プラボーの音が聞こえたり、拍手が鳴り止まなかったり、また、演奏家が「ありがと」と握手をしてくださるのが私の宝です。

——ザ・シンフォニーホールへの想いと、今後の抱負は？

オペラやバレエとは違い、「美しい音」だけで聴かせるのがザ・シンフォニーホールです。ホールに素晴らしい残響があっても、それを鳴らすのは演奏家です。だから、アーティストが気持ちよく演奏できるように支え、ホールを美しく響かせるように努めたいです。そして、もつと若い人に足を運んでもらい、この素晴らしい生音を聴いて貰えるように門戸を開くことが大切だと考えます。そのために、ステージの魅せ方など、斬新なアイデアも提案していきたいです。